

風土記の丘の花だより¹³⁹

今、そしてこれから見られる植物(2022年6月18日)

近畿地方もやっと梅雨入りしました。しばらくはうっとうしい日が続くことでしょう。でも、梅雨の晴れ間には外に出て、野の花を眺めながら散歩しましょう。雨の日の、傘をさしての散歩もまたオツなものです。



まだ6月だというのに、秋の七草の一つキキョウが万葉植物園で、もう咲いています。本当に鮮やかな色で遠くからでもよく目立ちます。野生のキキョウは激減し、いまでは準絶滅危惧種になっています。(2012年和歌山県レッドデータブック)ですから、キキョウは花屋さんや植物園などで見る花と思われがちです。万葉の昔は野原に普通に咲いていたのでしょうか。



風土記の丘に自生するササユリの花はすでに終わっていますが、万葉植物園ではきれいに咲いています。(でもこれをご覧になる頃ではどうでしょう、ちょっと不安です)ササユリの名前は葉の形がササに似ていることによります。梅雨前後の里山を代表する花ですが、減ってきているので、各地で保護活動がなされています。



小早川家住宅の庭でホタルブクロが咲いています。私は風土記の丘でお世話になって4年目ですが、初めて確認しました。毎年咲いていたのでしょうか。それとも久々に開花したのでしょうか。どちらにしても、きれいな花に感動しました。他の野山に行けば、それほど珍しい花でもないのに、なぜかここで自生株を見たことはありません。何か情報をお持ちの方はお知らせください。



アカメガシワに花が咲いています。と言っても、上の3つほどの華やかさはありません。雌株と雄株があります。左が雌花、右が雄花です。昔はヒサギと呼んだそうです。カシワとは「ごはんを包む葉っぱ」という意味で、紀南の方には、この葉で包む郷土料理のお寿司があるそうです。

松下